

# 広報えんがる 瓦版

2016年(平成28年)  
**11月17日**(木)  
発行：遠軽町役場  
総務部企画課  
電話 42 - 4818  
FAX 42 - 3688

## 遠軽厚生病院で1年1か月ぶり分娩再開

# 帰ってきた産声

11月4日、遠軽厚生病院の4階西病棟に産声が届きました。

産婦人科医師が不在となっていた同病院は、昨年10月から分娩ができなくなり、この間、遠軽町、湧別町、佐呂間町の3町で構成する遠軽地区総合開発期成会では、遠軽地区地域医療対策連携会議を組織し、道外の大きな病院や医科大学に直接赴き、医師派遣の要請を行うとともに、全国の産婦人科を掲げる病院などに対して、医師招へいのダイレクトメールを送付したほか、医師募集ポスターを作成し、関西方面の電車に中づり広告を掲示するなど、医師確保に努めてきました。



11月4日に遠軽厚生病院で出産した木原麻菜実さんとお子さんの羽菜ちゃん

その成果として、ダイレクトメールを見てこの地域の窮状を知った石川雅嗣医師が遠軽厚生病院に赴任することが決まり、今年8月22日から外来診療を拡大さらに同病院では、分娩再開を目指して助産師の確保など体制を整え、11月8日以降に出産予定の妊婦の分娩を決めています。

この日出産を迎えたのは、地元での出産を希望し、10月から同病院で妊婦健診を受けていた町内在住の木原麻菜実さん。木原さんは自宅で陣痛を迎え、夫に送られて来院。午前7時15分に3人目となる元気な女の子を出産しました。木原さんは「移動中にもし何かあったらという不安があり、地元の遠軽厚生病院での出産を選びました。お産を終えて一安心しています」と話しながら、お子さんを笑顔で抱きしめていました。また、この1時間前には、紋別市在住で初産婦の方も出産を迎えています。

同病院で、再開後初の分娩を終えた石川医師は「助産師を中心とした自然なお産で、順調な分娩再開ができました。今後も病院内で連携を取り、安心感を持つて出産に来ていただけます」と、話していました。

遠軽地区地域医療対策連携会議では、引き続き医師確保に向けたダイレクトメールを送付しており、今後は首都圏の電車に中づり広告を行う予定です。

分娩を再開して初の出産の報告を受けた佐々木修一遠軽町長は「遠軽での出産を再開させようという多くの皆さんの気持ちは、この分娩再開という結果に結びつきました。ご尽力いただいた関係者の皆さんに心から感謝申し上げます。必ず、あと2人の医師確保に向けて、あらゆる努力を尽くします」と、決意を新たにしています。

なお、同病院では、経産婦だけでなく、初産婦の分娩や里帰り出産についても対応しています。産婦人科の診療、分娩についてのお問い合わせは同病院 ☎42-4101まで。

## 複合遊具 完成 たくさん遊んでね!

瞰望岩下の公園に、新たに複合遊具を設置しました。これは、町内在住の東海林強さんから「子育て支援資金」として、町へ1千万円の寄附をいただいたことから、町が地域の子どもたちの笑顔と健康増進のため、整備を進めてきたものです。



瞰望岩下の公園に完成した複合遊具

この遊具は、遊べる年齢が3歳から12歳までとなっており、すでに設置されている遊具よりさらに幅広い年齢の子どもたちが一緒に遊べるようになりました。

なお、この遊具は大型で設置に時間を要したため、冬にかけての完成となりました。開放は来春の雪解け後を予定していますので、ぜひ楽しみに春を待ってくださいね。